

ライズ通信

第10号
2011年 3月発行

NPO法人リヴォルヴ 学校教育研究所



二の宮事務所

〒305-0051 つくば市二の宮4-3-2
二の宮コーポC 101号
電話 029(856)8143
FAX 029(896)4035

ライズ学園 谷田部教室

〒305-0861 つくば市谷田部2983 (アラキヤさん2階)
電話/FAX 029(836)8447
E-mail rise@cure.ocn.ne.jp

東日本大震災

子ども達の笑顔を手紙に

3月11日午後2時46分、ライズ学園では午後の授業の最中だった。激しい揺れにコピー機が跳びはね、机の下に身を隠した子ども達の頭上に本棚が倒れかかった。それでも子ども達は、誰一人かすり傷さえ負わなかった。さすがに表情は硬くなっていたが、取り乱すこともなく冷静に行動し、全員が無事に帰宅をした。

教室は惨憺たる状況で、再開までには一週間を要した。原子力発電所のその後や遠方から通っている子の交通手段が心配されたが、多くの子ども達が明るい顔を見せてくれた。

洋品店の2階を間借りしたライズ学園の教室には、北側と東側に窓が2つきりしかない。卒業生が作った木製のロッカーを、とんかちを片手に修理する子、本棚を壁に固定する子など、薄暗い教室でみんなよく働いた。

少し遅くなった昼食時、
「お昼を食べる時ぐらい、電気をつけようか」と言うと、
「だったら、半分だけにしよう。みんな大変な思いをしているんだから」という声があがった。

照明はいつもの半分でも、教室はとても明るくなった。

テレビでは、空っぽになった小学校の様子が何度となく放送されていた。ついこの間まで、明るい声で包まれていたであろう教室やグラウンドが、瓦礫で埋め尽くされている。ここにいた子ども達はどこに逃げたのだろう。家族は無事だったのだろうか考えると、胸が締め付けられて声が出なくなる。

私は子どもの頃から泣き虫だった。ここで泣いたら、涙が止まらなくなる。心が崩れてしまう。意気地のない私は、画面から目をそらしていた。

再び、ライズ学園の教室。午後からは「何かできることはないか」と話し合った。「むずかしい」と、考え込む子もいれば「私達には何もできないよ」と、言う子もいた。

結局、ある男の子の提案で、使っていない文房具を集めて送ることになった。

「それならできる!」と、笑顔を見せた女の子。

被災地にだって学校に行かずにいた子がいるはず。そんな子ども達に、ライズ学園からメッセージを送ろうということにもなった。

「だれか原案を書いてみてくれるかな」と言うと、人前に出るのが苦手な男の子が

「それじゃ…ぼくが書こうかな」と、つぶやくように言った。

震災以来ずっと抑えていた涙が、思わずあふれ出た。しかし私は、その涙をすぐに止めることができた。じっと私を見つめる子ども達の温かい視線が、私を包んでくれていた。



ライズ学園：お楽しみ会 (3/22)

我が家の次女は、歩道橋の上で震災に見舞われた。激しい揺れに、歩道橋が落ちるのではないかと怯えたそうだ。声にならない悲鳴をあげて倒れ込む老婆。しかしその瞬間、一人の若者がそのそばに駆け寄り、わが身をかばうようにしていたそうだ。ピアスをいくつもつけて髪を逆立てた青年のその姿に、彼女は勇気を与えられたという。

マスコミやインターネットでは、悲しみや恐怖と闘いながらも、復興のために立ち上がろうとする、多くの老若男女の姿が伝えられている。私達は、なんて素晴らしい国に生まれてきたのだろう。

今、遠くから何台ものバイクの暴走音が聞こえている。「ガソリンが不足しているというのに」と、つかの間、腹立たしくなった。しかし、よくよく耳を澄ましてみると、それはやり場のない思いを抑え込んだ若者達の叫び声のようにも聞こえてきた。

彼らは逃げている、と言う人もいるかもしれない。だけど私だって、辛い現実から目をそらすようにして生きている。私が私でいられるのは、温かく見守ってくれる人がいるからだ。私自身も、いつもそばにいてくれる仲間とともに、愛すべき子ども達、若者達のために、できることを少しずつでも継続させようと思いを新たにしたい。

最後になりましたが、この震災で亡くなった皆様のご冥福と、被災された皆様が一日でも早く安心して生活ができるようになりますことを、心よりお祈り申し上げます。

NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所
理事長 小野村 哲

2010年度のライズ学園

今年度もライズ学園の仲間達は、さまざまな体験学習や国語、数学などの教科学習に積極的に取り組みました。

スポーツの時間には、東洋太平洋&日本ウエルター級チャンピオンの井上 庸 選手から、直々に「ボクササイズ」の指導を受けました。「雪合戦」は、福島から雪を運んで行いました。昨年度は、トラックの故障で急きょ「ボール合戦」になってしまいましたが、今年は本物の雪で、しかも国際ルールに従った本格的な雪合戦を楽しみました。

水戸歴史館への遠足では、中高生はもちろん、小学生も時間一杯まで真剣に見学をしていました。環境学習の一環として訪問したゴミ処理場「つくば市クリーンセンター」では、職員の方もたじろぐほどの質問を連発していました。

進路については、高校生1名が私立大学への進学を決め、中学生3名が県立高校に合格。さらに卒園生が、東京大学大学院に合格したのにもビックリ！ 今後は、環境問題を解決するための研究に取り組むそうです。

*「ライズ学園日記」<http://rise.gr.jp/rise> もごらんください！



授業風景：中学生国語



スポーツの時間：ボクササイズ



カルチャー教室：雪合戦



遠足 (水戸歴史館・千波湖)

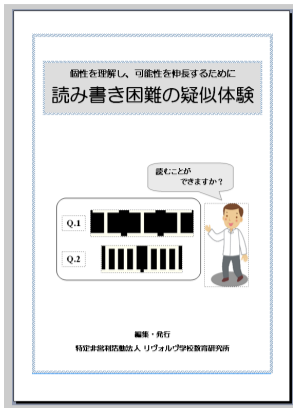
「読み書き困難疑似体験コンテンツ」を 全国教育委員会等に発送！

可能性をもちながらも、読み書きにつまずいて自信をなくしてしまう子がいます。歴史上の偉人達の中にも、学校での勉強は得意でなかったという人が大勢います。

そこでリヴォルヴ学校教育研究所では「福祉医療機構（WAM）」より助成金をいただき、子ども達の読み書き困難を疑似体験いただけるCD-ROM：3,300枚と小冊子：6,500冊を製作し、全都道府県及び市町村教育委員会等に無償配布しました。

この取り組みは、新聞各紙で取り上げられ大きな反響を呼びました。茨城県内については、全障研茨城支部のご協力により、全小中学校、養護学校への発送も予定しています。研修会等で、利用いただければと願っています。

疑似体験は、当法人Webサイト (<http://rise.gr.jp/>) でもご覧いただけます。



小冊子
「読み書き困難疑似体験」



上の文字が
読めますか？

教育公開講座も開催！

2010年8月と2011年2月に、教育公開講座「読み書きに困難を示す子ども達への理解と支援」も開催しました。

今回初めて、ネット広告による広報を試みた結果、遠くは九州や北海道から参加された方もいらっしゃいました。参加者アンケートによる評価は、それぞれ4.8と4.7（5段階評価）でした。



公開講座 2/19：つくば市民大学

「英語教材開発」と「共同研究事業」に 助成金を申請しました！

「いばらきサービス産業新時代対応支援事業」から、2,425,000円の助成金が新たに決定いたしました。同事業では、中高生用英語教材の開発に取り組みます。「日本財団」からは、筑波学院大学の先生方との共同研究事業「日本人EFL学習者の『読み書き困難』の実態調査と支援方法に関する実証研究」について、助成金交付の内定をいただいています。

教材開発・販売事業は、ライズ学園の継続を図る上で、貴重な収入源の1つとなっています。調査研究事業では、外国語としての英語を学ぶ上での、読み書き困難の実態を明らかにすることで、その支援の質的向上に寄与したいと考えています。

ホームページをリニューアル バナー広告・メーリングリスト参加者も募集！

リヴォルヴのホームページが見やすくなりました。日々のライズ学園の活動の様子や、好評をいただいている「ひらがなの森」「英語の森」などの教材もお試しいただけます。

あわせて、バナー広告とメーリングリストへの参加募集も開始しました。詳しくは、<http://rise.gr.jp> をご覧ください。

ホープ茨城募金

震災に取り組む茨城の
市民活動 支援の募金

ある避難所を訪れると、ボランティア学生みなさんが、グラウンドで子ども達とともにボールを追う姿が見られました。県内諸団体も、地道な支援活動に乗り出しています。東日本大地震からの復興に取り組む、茨城のNPOや市民による自主的な活動をぜひご支援ください。

☆ 茨城NPOセンター・コモンズ <http://www.npocommons.org/> ☆☆

東日本大震災被災地の子ども達に、文房具を届けよう！

引き出しの中に眠っている文房具はありませんか。ライズ学園では、東日本大震災の被災地や避難所に文房具を届ける準備を進めています。

鉛筆や消しゴム、ノート（以上、未使用のもの）、鉛筆削りなどがありましたら、リヴォルヴ学校教育研究所二の宮事務所、または「アラキヤ

さん（〒305-0861 つくば市谷田部2983）までお届けください。

詳しくは、<http://rise.gr.jp/archives/2000> をご覧ください。みなさまのご協力をお願いします。

（ライズ学園生徒・スタッフ一同）

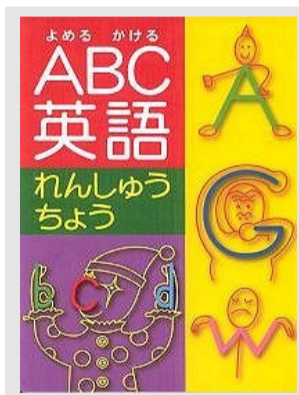


大好評です！ リヴォルヴの学習教材

全国の小中学校、塾等で採用されているリヴォルヴの教材は、長年の研究と実践の成果を盛り込んだまったく新しい教材です。



ひらがな
れんしゅうちょう
600円（税込）



ABC英語
れんしゅうちょう
700円（税込）



ひらがな絵本
798円（税込）

※ 学校や塾等での一括購入に際して、「れんしゅうちょう」には、特別価格も設定しています。詳しくは、二の宮事務所までお問い合わせください。

※ これらの教材販売による収益は、ライズ学園の運営や学習につまずきがちな子ども達の支援活動に充当します。

※ さらに、収益の内5%は、東日本大震災被災地の子ども達の支援のために活用いたします。



れんしゅうちょう準拠
ひらがなの森 ver. 2.0
価格 2,310円（税込）



れんしゅうちょう準拠
英語の森 ver. 1.0
試供価格 1,200円（税込）

正会員・賛助会員募集

リヴォルヴ学校教育研究所の活動は、多くの方々の善意によって支えられています。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

《支援方法》

- 会員として入会いただく
正会員 個人 5,000円 団体 10,000円 学生 2,500円
賛助会員 個人1口 3,000円 団体1口 5,000円

- 寄付をしていただく
オンライン寄付サイト「Give One（ギブワン）」を利用すれば、自宅に居ながらにしてご寄付いただくこともできます。

《会費・寄付の振込先》

- 郵便局から
00120-5-171173 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所（郵便振替）
※ インターネット、普通口座からの入金の際は以下をご利用ください。
記号 10600 35657951 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所（ばるる）

- 銀行から
常陽銀行研究学園都市支店 店番104 普通1822778
特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所 理事長 小野村哲（オムラ トシ）

※ 東日本大震災被災地の子ども達への支援金振り込みにあたっては、その旨を明記ください。

編集後記



10年間ライズ学園に通園したKさんが、今春、大学に進学します。たくましくなった子ども達の後姿を見ながら、私達は今、改めて、リヴォルヴで働けることの幸せをかみしめています。この度の震災で被災された皆様に、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、日々の活動を継続、発展させることで、少しでも社会に貢献することを誓いたいと思います。（リヴォルヴ事務局長 北村直子）